

# 「第5回 昭和ケア会議」

(昭和未来会議アクションプロジェクト)

平成 29 年 11 月 27 日 13 時 30 分～15 時 30 分  
在宅介護支援センターほほえみの里「プラザ昭和」

## ☆本日の「昭和ケア会議」は…

本日の『第5回 昭和ケア会議』の予定です。

※初参加の方がいた場合、簡単に『昭和未来会議』と『昭和ケア会議』の説明を行います

### 1. 昭和の旬の情報共有【10分程度】

### 2. 「一人一言トーク」【5分程度】

(最近嬉しかったこと、良かったこと等、皆さんが聞いて嬉しい内容を『一言』ずつ)

※参加者の皆さんのアイスブレイクとして実施

### 3. 本日の昭和ケア会議【終了10分前まで時間の限りお話ししましょう!】

「第4回 昭和ケア会議」のおさらい(5分程度)

### 今回のテーマは…「昭和の防災について②」

地域で頑張る皆さん、専門職のみなさん、行政それぞれの経験や知見を持ち寄り、学びや気付きを得る場とします。

※具体的なアクションにつながる場合があれば、実行メンバーを、皆で支援します。(例「認知笑劇団」)

### 4. おさらい、次回テーマ決定【10分】

## ※、『昭和未来会議』と『昭和ケア会議』について

繰り返しになりますが、最初に「昭和ケア会議」の位置づけをおさらいします

「昭和ケア会議」は「昭和未来会議」のアクションプロジェクトの一つとして始動しました。

- ▶平成 28 年 6 月「昭和未来会議」スタート（毎月 1 回開催）。多様な考え方や意見があげられたが、その中から「みんなの理想の未来」が 2 つにまとめられた。

### < 2 つの「みんなの理想の未来」 >

- ▶①「みんなが安心して暮らせる昭和に」
- ▶②「若者が活躍できる魅力的な昭和に」

- ▶この、みんなの理想の未来に向けて「やってみたいこと」のアイデア出しを実施。様々なアイデアが上がり、意見が多かった 3 つの項目を中心にグループが分けられた。

### < 3 つの「昭和未来会議アクションプロジェクト」 >

- ▶①「イベントグループ」
- ▶②「日常の交流の場グループ」
- ▶③「支援が必要な人のためにできることグループ」

- ▶アイデアの実現に向けた話し合いを続ける中で、課題が見えてきた。

- ▶①「毎回のメンバーが固定されず、月一回の開催なのでなかなか話が進まない」
- ▶②「関わる人々がワクワクしないと続かない」
- ▶③「新しい取組だけではなく、既存の活動の充実も大切」  
⇒①②に対応して、「3つの個別アクションプロジェクト※」始動  
⇒③に対応して「地域資源リスト」を作成、関係者で磨き上げ、幅広く共有

※アクションプロジェクトの内容

- ①イベントグループ ⇒ 「昭和つながりリングプロジェクト」と命名し、ミーティングを定期開催。「昭和☆まもりんピック (10/7.8)」の開催決定！協力者募集中！
- ②日常の交流の場グループ ⇒ 多文化交流「畑」の検討、視察や試食等を開始！
- ③支援が必要な方に対してできることグループ ⇒ 「昭和ケア会議」スタート！

- ▶母体となる「昭和未来会議」のこれから

- ▶ 3 つのアクションプロジェクトのスタートを機に、毎月ではなく開催間隔を広げて実施することに。
- ▶ 昭和の未来を共有する情報交換の場（3 つのアクショングループの活動状況の報告・協力依頼をはじめ、昭和の未来に向けた様々な情報、方向性の共有を行う）
- ▶ 未来に向けたテーマトークの時間を設け、新しい仲間を増やす。

### 「第4回 昭和ケア会議」

平成 29 年 10 月 30 日 13 時 30 分～15 時 30 分 在宅介護支援センターほほえみの里「プラザ昭和」

(内容)

1. 「昭和の情報共有」(『昭和☆まもリンピック』『認知笑劇団』等)を行いました

2. 「前回のおさらい」

第3回昭和ケア会議のおさらいを行いました

- ・「支援の必要な方に対してできること」について、皆さんの関心の高いテーマについて意見を出し合い、共有しました。
- ・次回以降の昭和ケア会議では、毎回皆さんの関心の高い項目を中心にテーマを1つ定めて、より充実した意見交換や情報共有を行うことになりました。
- ・第4回昭和ケア会議のテーマは「昭和の防災について」に決まりました。

3. 「第4回昭和ケア会議」のおさらい

～昭和の防災について～

●地震の際に団地がどうなるのかを知りたい

→ライフラインは？

→それによって日頃の意識を高める

→情報を集めてからどうすればいい？

●要支援者名簿

→名簿作成等よりも、災害時の要支援者を地域ごとに把握している地域が先進的

→昭和の中でも、それぞれの地域にあった方法で行うことが必要

→組長単位で気になる人の把握をしてみても？

→優先すべき人がわからない。色々な人がいる。年齢以外の情報が細かく区分されていけばよい

→同意してくれる人のことから地域で話し合えないか

→まず、実践し、たたき台にしていく

→「要支援者名簿」と「ひとり暮らし名簿」→名簿の活用の仕方がわからない

→名簿の管理をしっかりと。災害時に共有できるよう

→市に名簿を提出すると帰ってこない？(そういうことはなく、地域が保管している)

→消防には共有されているのか？(消防には共有されない、地域が活用する為の物)

## ●消防

- 人手不足？消防団には団地の人も参加しているが知られていない。訓練に参加してもらっては？
- 八ツ田は防災士の資格取得を推奨している。市からも助成が出る。
- ※まもりんピック関係者にも防災士の有資格者が。昭和ケア会議にお招きすることも可能。
- 昭和は消防の分団がない？自主防災会は形だけになっていないか？
- 牛田が活発。独自に「防災隊」を立ち上げている。昔から老若男女のつながりが強い

## ●個人情報

- 家の中まで入れない。隣の家のことは言いにくい。内緒で入院していることも
- 名簿登録をすれば、有事には役所の人が来ると思っている
- 行政は有事の際は対応がたくさん。有事の最初は地域が大事。3日～1週間は地域で何とか
- ・ひきこもっている人、訓練にどう参加してもらうか。きっかけづくり

## ●団地の階段ごとに検討できないか

- 災害時に助け合うためには普段のコミュニケーションが必要
- 外国人に助けってもらうことも
- まずは「あいさつ」から。何かあったら助けてもらえるか聞いてみよう？
- 外国人もあいさつはできる。スクールガードの格好をしていると声かけやすい
- まず、石川さんが一つの階段の括りで声掛けを行ってくださることに、結果は次回共有

## ●人材を発掘したい

- 組長は変わってしまう
- リーダーシップを取れる人が必要。組長とその人が名簿を共有できれば
- 若い人の状況も把握したい

## ●昭和の「組」

- 機能している？自治会も子ども会が無くなり、入らなくなった人も多いのでは。
- 昔は団地の棟ごとにあったが。組長は掲示物の管理と全戸配布物の対応。
- 外国人が「自治会費」がわからない。回覧版もわからない。説明も大変。
- 直接持ってくる人もいる。外国人の方がまじめなこともある
- 防災パトロールに協力してもらえないか？→まもりんピック等のつながりから当たってみる
- 次回の防災訓練には外国人にも参加の呼びかけをしてみよう

## ●次回の昭和ケア会議も引き続き防災をテーマに話し合い。「昭和の防災②」

以上です